

令和2年度
事業計画

社会福祉法人 倫尚会

令和2年度 事業計画

社会福祉法人 倫尚会

1. はじめに

世界的に感染が急拡大している新型コロナウイルス感染症は、海外からの観光客の大幅減少だけに止まらず、人々の日常生活や企業活動にも大きな影響を与えている。

政府からの小中高校への休校要請、卒業式の短縮や中止、各種会議や講演会など多数が集まる各種イベントの開催自粛要請、在宅勤務や時差通勤の奨励など社会生活に大きな負の影響を与えている。厚生労働省や行政からも病院や高齢者施設に各種通達も発出されており、入居者への感染防止の観点から、現在取り得る全ての対策を講じている所である。

さて、全国老協の「平成 29 年度収支状況等調査結果報告書」では、特養の 36.2%が赤字施設だった。利用者のニーズに応じて経営がうまくいっている施設と、そうでない施設に分かれているのが現状と言える。特養としては、ケアの質を維持しつつ業務の効率化を図り、人材の確保、職員研修の充実、管理職の意識改革、経営戦略の策定・見直しなどに取り組むことが求められる。また、「働き方改革」が求める雇用形態にかかわらず公正な待遇の確保とともに、専門職の業務と周辺業務を分ける機能分化の取り組みも求められる。

厚生労働省の社会保障審議会介護保険部会では、2021 年からの第 8 期介護保険事業計画作成に向けた本格的な議論が始まった。次期改定でこれまで以上に介護報酬に反映されるとみられることには、看取りや重度者・医療ニーズへの対応、自立支援・重度化防止の取り組み、人材の有効活用、ロボットや IoT などの活用がある。さらに、国は社会福祉法人の連携化・大規模化を推進しようとしている。

財務省の財政制度等審議会財政制度分科会では介護事業所・施設の経営効率化を求め、介護サービスの経営主体の大規模化について議論されるようになってきている。事業所の規模が大きいほど経営状況は良好なので統合・再編を促すべき、というものだ。大規模化で経営の効率化や社会保障給付の抑制への道筋をつけたいという財務省の思惑が見え隠れする。厚労省で R1 年 6 月に開かれた「第 3 回社会福祉法人の事業展開等に関する検討会」において、事務局が今後の対応に向けた考え方として「連携や協働化、大規模化などはあくまでも希望する法人の主体的な判断のもと進めるべきだが、地域貢献や人材確保、人口減少下でのサービス維持などを通じて、社会福祉法人に対する高まる地域の期待や役割などに応えていくのに有効」と説明している。

我々社会福祉法人は、地域包括ケアシステムを進化させ、地域の実情に合わせて地域にある保育所、障がい者施設、児童養護施設、母子寮等の社会福祉法人が運営する社会資源をつなぎ合わせながら、障がい者も子どもも高齢者も、生きがいを持って安心して暮らしていける地域社会を実現させる必要がある。

当法人も核となる地域資源の 1 つだという自覚を持ち、地域に開かれた施設として自分たちが持っているノウハウを地域にも還元していく義務と責任がある。そして地域の安心・安全を守る要としての存在感を示し、私たちの手で地域共生社会をつくり上げて行かなければならない。

2. 法人としての基本方針

- (1) 地域社会から信頼される社会福祉の中核施設（拠点）として成り得るよう、地域住民に開かれた施設づくりに努める。
- (2) 利用者の自分らしさに寄り添い最後まで本人の価値観を尊重安心して支援できる施設作りに努める。
- (3) 利用者が満足し、家族からも喜ばれる福祉サービスに努める。
- (4) 日常生活活動の自立と利用者の尊厳を守る生活援助に努める。
- (5) 働き易さと働きがいを両立できる職場環境の構築に努める。
- (6) どんな状況下でも自ら考えて動ける職員の育成に努める。
- (7) いざという時に地域と支援・受援し合える、顔の見える関係づくりに努める。

3. 本年度の法人目標

- (1) 新型コロナウイルス感染症に対して、厚生労働省や行政からの通達に従い、当面施設入所者への感染防止の観点から、利用者家族に対する面会制限や業者による搬入制限などを継続することとする。また、職員に対しても出勤時の検温、アルコールによる手指消毒、マスク着用を当面継続することとする。
- (2) 倫尚会が設置運営する2拠点7事業所の職員各人が常にお客様（利用者）ニーズのより一層の把握、各種サービス内容の改善や見直し、利用者の満足度向上に向けた取り組みにより一層努める。
- (3) 職員のスキルアップと研修体制の強化・充実のため全国老協・市社協・北九州高福協等各種関係団体主催の外部研修会等にも積極的に参加し、その研修内容については参加者のみならず職種ごとにフィードバックをはかり、職員全体のスキルアップに努める。
- (4) 職員の処遇改善を第一に福利厚生により一層の充実や各種制度の改善、非効率業務の見直し等に努める。
- (5) 職員が職場内でハラスメントを受け退職することがないように、各事業所の職域内における管理職による相談体制を強化し、ワンチームで働きやすい職場環境作りの取り組みを強化する。
- (6) 施設の一部開放などを通じた地域住民に開かれた施設作りを進める。
- (7) 池田校区社協や池田まちづくり協議会等の地域福祉に貢献する地元の各種団体との連携強化による地域の福祉ニーズの把握に努めると共に、地域における福祉人材の掘起しや人材育成にも引き続き取り組んでいく。

4. 本年度の法人本部及び事業所別目標

(1)法人本部(地域貢献事業)

子ども食堂「馬場山ふれあい広場」

スタートして3年目となる本事業は、地域における多世代の交流と子ども達の食育支援と居場所作りとして、当法人の地域貢献事業として、その活動が実績として行政からも高く評価されている。市内には行政が把握している「子ども食堂」が30ヶ所以上になるなど急速に増えつつある。この為行政が中心となり、市内の子ども食堂をサポートするため約2年前に「子ども食堂ネットワーク北九州」が出来、これを中心に子ども食堂間の情報の共有や研修会も行われるようになってきた。当「馬場山ふれあい広場」も将来を担う子どもやその保護者に倫尚園を知ってもらい、地域のボランティアの皆さんも倫尚園を日ごろから身近に感じていただき本事業が将来の地域における人作りにも資するようしっかり取り組んでいく。

(2)全事業所共通

まちかど介護相談室(地域貢献事業)

北九州市と公益社団法人北九州高齢者福祉事業協会合同の地域貢献事業である「まちかど介護相談室」も実施2年目となった。各施設が地域包括支援センターのサブ機能として、介護を中心とした地域福祉の相談窓口としてこの活動の実績をしっかり積み上げていく。

(3)倫尚園

【1】施設系

市内における特養の急速な整備に伴い、従来型の多床室と新型の個室ユニット型と比率が市内においても逆転し従来型特養への入所申込の大幅減少や入居者の重度化に伴う入院や死亡等による空きベッドが常時発生するなど稼働率が減少している状況が、長期化する傾向となっている。本年度も引き続き特養入所最低稼働数93床、短期入所2床を目指し入所申込みUPに向けた営業努力をしていくこととする。

ソフト面においては、入居者に対する直接処遇改善のための職員のマナー向上、ホスピタリティの教

育・指導等を通じたサービス提供側の質の向上にも引き続き取り組んでいくと共に、ロボット・センサー・ICT の活用を通じた介護業務の負担軽減等、業務や情報伝達の効率化にも取り組んでいく。ハード面においては外壁塗装工事等外観からも選ばれる施設作りに取り組んでいく。

【2】居宅系

地域包括ケアシステム等、国の在宅重視施策が進められていることを踏まえ、可能な限り在宅での生活が継続できるように、利用者の意向に沿ったサービス提供に努めることとする。

①デイサービスにおいては専門性を要するリハビリテーションによる利用者生活機能の向上支援の充実を図り、利用者にとって魅力的なサービス内容や満足度 UP 作りに努め利用者増（稼働率 UP）を目指すこととする。

②ヘルパーステーションは、登録ヘルパーの増員等を通じてよりニーズに合致したサービス提供体制を強化し、より一層の収益 UP を目指す。

③居宅部門の顔でもある在介センターにおいては、地域の方々も気軽に相談してもらえらる事務所の環境作りに取り組むとともに、地元のまち協のサロン活動への参加等を通じて自治区会、まち協、校区社協等との交流をより一層強化し、選ばれるケアプランセンター作りに努力する。

(4)高齢者複合施設ウェル馬場山

1. 職員の専門性を高め、多様化する利用者の個々のニーズに対応するとともに事故防止に努め、安心安全な生活が出来るよう職員間の連携を強化し、利用者に満足していただけるサービス提供に努める。また、かかりつけ医・外部医療機関・訪問看護ステーションとの連携を密にし、一般状態悪化や急変時等の迅速な対応に備える。

2. 可能な限り ADL の低下を防止しその維持・向上に努める。

3. 老朽化した機器の更新等を計画的に実施し、利用者の生活環境の改善に努める。

5. 施設サービスの基本理念(全事業所共通)

(1)安全と安心と尊厳のある生活が保障されること。

①基本的な生活欲求を充足する。

②安定した日常生活が保たれる。

③心身の状況に応じた尊厳のある生活が保たれる。

(2)個別的で科学的な介護計画に基づきケアが提供されること。

①利用者の生活支援のためのケアである。

②利用者にとって最も適切で効果のあるケアである。

③利用者又はその家族の同意で行われるケアである。

(3)潤いと豊かさとプライバシーに配慮された生きがいのある生活環境を提供すること。

①清潔感があり、最大限に配慮された住環境の中での個人生活が保てる。

②明るい雰囲気の中で、楽しく、おいしい食事ができる。

③各種年中行事やボランティア活動、各種慰問、バスハイク、地域住民との交流や入所者参加型の各種サークル活動を通じた心が温まる充実した日々が過ごせる。

6. 介護にのぞむ基本姿勢(全事業所共通)

(1)相手の人格を尊重し、常に相手の立場に立ったサービス提供に努める。

(2)相手の心身の状況に応じたケア（生活支援）の提供に努める。

(3)相手に解りやすく介護（生活支援）内容を説明し、懇切丁寧ベストの対応に努める。

(4)事故のないサービスに努める。

- ・各種マニュアルに従い、徹底した安全配慮に努める。
- ・ケアプラン等で利用者の状態を十分把握し、介護中の事故防止に努める。
- ・利用者の様子や変化、事故が予測される事象等は職員同士情報の共有を徹底し事故予防に努める。

7. 主たる事業内容

(1)介護保険事業

- ・特別養護老人ホーム（倫尚園 96 床， 第二倫尚園 29 床）
- ・短期入所生活介護（倫尚園 8 床）
- ・認知症対応型共同生活介護（グループホーム 18 床）
- ・通所介護（デイサービスセンター 30 名）
- ・訪問介護（ヘルパーステーション「オアシス」）
- ・居宅介護支援（在宅介護支援センター）

(2)高齢者福祉事業

- ・養護老人ホーム（50 床）

(3)地域における公益的取組み

- ・子育て支援事業「馬場山ふれあい広場」（子ども食堂）
- ・地域貢献事業「まちかど介護相談室」

(4)人材養成のための教育研修機能(施設実習受託先)

- ・介護福祉士養成実習：（麻生医療福祉専門学校、北九州保育福祉専門学校 他）
- ・栄養士・管理栄養士実習：（九州女子大学 他）
- ・ホームヘルパー養成実習：（オアシス訪問員の継続研修、介護労働安定センター 他）
- ・介護者教室：（一般地域住民、家族介護者、ホームヘルパー等対象）
- ・学生教育実習：（大原簿記・公務員専門学校他）